

SALVADOR

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会報

代 表：松本敏之、大倉一郎
 事務局：横浜港南台教会 中沢 謙
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29
 Tel:045-833-5323 Fax:045-833-6616
 郵便振替口座番号：00210 - 2 - 97571

悔いて改める機会に

小井沼眞樹子

ブラジルのコロナ感染者と死者の数が、ついに世界第2位になってしまい、まだ拡大の一途をたどっています。多くの皆さんが、先の見通しの立たない状況に置かれている小さな者のことを案じてお祈りくださっていると思います、まず初めにここから皆さんに感謝申し上げます。

★2つの災禍

日本のニュースで流れる映像は、主に感染拡大が最も大きいサンパウロ州のものでしょうか。私が住んでいるバイーア州は、日本の1.5倍の面積で人口約1,530万人、サルバドール(州都)は約300万人です。ブラジルの感染状況は6月30日現在(日々増加します)、以下の表をご参照ください。

	感染者総数	回復者	死亡者
ブラジル全土	1408,485 (+24,052/日)	790,045	59,656 (+692/日)
サンパウロ州	281,380 (+6,235/日)		14,763 (+365/日)
バイーア州	69,467 (+972/日)		1,800 (+52/日)

*バイーア州の死亡者数の60%はサルバドールの住民です。

COVID-19を最初にブラジルに持ち込んだのはイタリア旅行からの帰国者でした。サンパウロに住む富裕・中産層から感染し始め、それが使用人などの労働者に拡大し、今や周辺の小都市や貧しい地区の方に拡大し続けています。また先住民族の保護地区には、ボルソナール大統領が憲法を無視して経済開発を奨励しているため、違法侵入者による火災や森林伐採が後を絶たず、先住民族や環境保護運動のリーダーたちが殺害されている状況に加えて、コロナ感染によって死者が急速に増えているのです。コロナは国籍や人種、性別、階層の違いを超えて平等に襲ってくるものと思われがちですが、そうではありませんでした。感染以前の社会の不平等、差別、周縁化が感染状況や医療態勢に厳然と現れてきています。感染が拡大するなか、低所得者のために経済活動規制を緩和し始めたところ、事態は悪化する一方。

そして、現大統領は一貫して富裕層、大企業を優遇する経済活動を優先する見地から、常軌を逸したような言動をして、国政や国民を混乱させています。

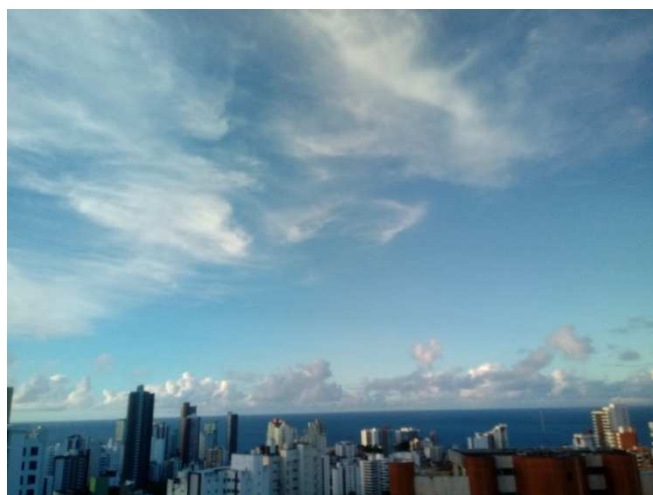
【ブラジル人を幸せにするために必要なもの:ワクチンと大統領罷免】という投稿をフェイスブックで見、笑えないジョークだと思いました。

★私の日常生活

Fique em casa! (家に居てください)の要請が出された3月半ば以降、もう3ヶ月以上ずっとアパートにこもっています。教会も3月22日の日曜日からは礼拝も日曜学校も教会堂ではできなくなりました。私の週1回のポ語の授業もトリンダー共同體での昼食ボランティア奉仕もすべて休止です。

親しい人々との交わりの機会を持たない生活が始まると、私はまず思考力の低下をすごく感じました。ポ語によるコミュニケーションがとても億劫になり、いろいろなニュースやメッセージを理解しようとする気力が失われていくのです。だんだん魂が枯渇していくのを感じ、詩編42編「潤れた谷に鹿が水を求めるように…」の言葉が身に沁みました。

毎日、窓辺から大空と海を見渡し、夥しいのちが刻々と失われていく世界を思いながら世界を包む祈り、Pai Nosso(主の祈り)を繰り返し祈っています。



食料の買い出しのために外に出ると、必ず助けを求めている人に出会います。スーパーの入り口で待っている人には何が必要なのかを聞いてそれを提供していますが、ある時、「自分はお米やフェイジョン(豆)をもらっても料理する場所がないから、すぐ食べ

られるものがない」と言う人がいて、はっとしました。それ以来、外へ出るときには必ずお弁当やサンドイッチを2つ3つ持って行くようになりました。そうすると、それを待っていたかのように空腹を抱えている人に出会いました。アルコールで手を消毒して、目を見つめて手渡します。にっこりと嬉しそうな顔を見た瞬間、イエスさまに出会った気がして…孤立して乾いたところを、こんな風にいのちと触れ合う中で慰められながら過ごしました。

そのうちに、雨季が本格的に始まり、激しい風雨が吹き荒れて外になかなか出られなくなっていました。家のない人たちはこの悪天候の中でどうやって生きているだろうかと案じながら、成す術もなく祈るばかりです。

家にこもっていても食物に困らず、お金の心配もなく、ケアが必要な同居人もおらず、感染予防できる私は特別に恵まれた人間です。感謝と同時に本当に申し訳なく思い、この状況を生き延びることができたら、その先をどのように宣教者として生きるのかと問われています。

★ヴァレリオ・シルバ合同長老教会の近況

年の初めに、教会にとって思いがけず嬉しい働き人が加えられました。近隣の合同長老教会を辞任したペーシリオ牧師と妻のスザナさんを、ダゴベルト牧師が私たちの教会に招いたのです。10名にも満たない小さな群れに牧師が3人になり、それぞれの賜物を活かす協同牧会が始まりました。50代半ばのこの牧師夫妻は、子どもや青少年への伝道に豊富な経験を積んで来られ、コンピューターの操作においても頼れる存在です。まさにこれまでヴァレリオ教会

に欠けていた人材を神さまが送ってくださったと皆で喜び、将来に希望の灯がともされたようでした。私は子供の教会学校への責任を解かれ、月に一度説教を担当、聖餐式を共同で執行していましたが、現在はコロナ禍で休止中。礼拝や祈祷会は SNS を使って繋がり、各家庭で行っています。

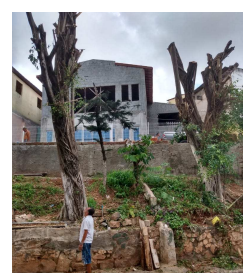
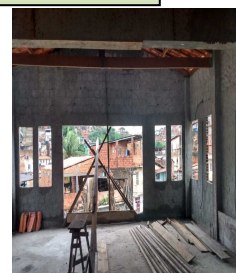
ところで、教団が発行している「信徒の友」誌1月号の聖書日課で、1月11日には私たちの教会を覚えて祈るように組まれていました。直後から「祈りました」のメールが何信か届き、その後、3月の初めころまで、日本の各地から祈りのはがきが次々に届いたのです。教会の人たちは、日本語のはがきが地球を半周して届くのを見て大層感激し、私たちの歩みを導いてくださる神の臨在を実感したことでした。日本の教会の皆さんに「こころから感謝しています」と伝えてくださいとのことです。



さて、昨年6月以来資金不足で中断していた会堂建築工事は、昨年末に日本からの献金が届けられて再開しました。

3月中旬以降自粛要請が出された後も、労働者たちの生活を窮地に追い込まないように、少しずつ工事を続けています。ダゴベルト牧師が毎日、工事現場に出かけて監督しています。

会堂建築はここまで進んできました！



【会堂建築献金の報告】

2019年12月の献金

116,100.00 レアイス (300万円を換金)

合計献金額 (日本以外からの献金も含む)

390,200 レアイス (=必要経費の75%充当)

なお、昨年頂いた献金の全額は持ち帰りませんでしたので、残金を日本の口座に置いてあります。

★マリア・ガレーガさん

5月半ばのある日、ジョアンペソアに住むマリア・ガレーガさんの娘さんからの SNS で、彼女が COVID-19 に感染して入院治療中との連絡が届きました。驚いてすぐに状態を問い正しますと、症状は安定して快方に向かっているとのこと。けれども彼女は 63 歳で既往症もありますから、急変しないとも限りません。すぐに、フェイスブックやメールに投稿して、彼女の回復のため、また家族のために祈ってくださいとお願いしました。早速、日本とブラジルの何十人もの方たちから祈っていますという力強い約束の言葉が届き、有難いことでした。



マリア・ガレーガさんとは 1994 年に初めて出会って以来、親しい交わりを続けています。その頃、堀江神父がジョアンペソアの神学院で若いイエズス会士の養成を担当しながら、その周辺の貧しい共同体を司牧しておられました。90 年に日本に帰国した私は、永住ビザの更新を兼ねて 2 年毎にブラジルに行き、神父のお働きの現場を訪問、初めてノルデスチ（東北伯）のポーボ（民衆）と出会う機会を持つことになったのです。私にとって、彼女はポーボのモデルのような人です。シンプルで強い信仰、一度会った人をずっと忘れず思い続ける愛情、訪れた人を大御馳走で歓待する広いこころの持ち主です。

彼女の奉仕する小さな共同体は、湿地帯の貧困地区にあり、殆ど女性と子どもたちの教会です。多くの女性たちは夫に去られたか、婚姻関係を持たずに何人も子どもを抱えてどうにか生きている母親たちで、文字の読み書きができるのはマリア・ガレーガさんだけでした。神父は毎週ミサを執行に来るわけではないので、神父

の来ない週には彼女が聖書を読み、信仰のメッセージをとりつぐのです。

今まで何人、日本からの訪問客をお連れしたことでしょうか？この小さな共同体での礼拝は、生き生きと喜びに満ち溢れていて、訪れた人は忘れられないと言っています。礼拝することは祭り(祝祭)なのだ、困難の中で生きているポーボから教えられ、信仰を新たにされてきました。

しかし、悲しいことにこの地区は治安が悪くなる一方で、また近くに異なるタイプの教会が建ち、屋外に向けて歌や説教を大音響で流すので、その騒音公害は相当なものです。決して良くはない生活状況の中、イエスさまを信じて希望を持ちつつ生きている共同体の人々にとって、信徒リーダーのコロナ感染はさぞ大きな試練だったことでしょう。

幸いなことに、マリアさんは退院後、自宅療養を 2 週間ほど続けてようやく日常生活に戻ることができました。「イエスさまが私に勝利を与えてくださった」と喜び、神さまと友人たちに「言葉で言い表せないほど感謝」しておられ、お祈りして下さったすべての人々にお礼を言ってくださいとのことでした。

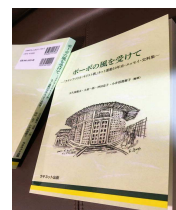
『ポーボの風を受けて』刊行

「ラテンアメリカ・キリスト教」ネット（通称ラキネット）は、亡夫國光の遺志を継いで 2006 年に生まれたキリスト教の運動体です。共に生きる社会への変革を目指し、日本とラテンアメリカの人々の連帯を促進することを目的として活動を続けてきましたが、この度 10 周年記念誌『ポーボの風を受けてー「ラテンアメリカ・キリスト教」ネット運動 10 年史・エッセイ・史料集ー』を刊行しました。小井沼國光の信仰の証として多くの方々に読んでいただきたいと願っております。購読をご希望の方には頒価 1000 円でお分けしておりますので、下記へお申し込み下さい。

申込先：ラキネット出版（大久保）

tokubo09@pk9.so-net.ne.jp

「彼の死はラキネットを誕生させ、その後の 10 年間でどんな実を結んだのかをこの記念誌が語っています。彼のいのちをそのような形で用いられた神のみ業を確認し、感無量の思いです」。
（「おわりに」より）



小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会計報告

2020.1.1～2020.6.30

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会費・特別献金	省略	支援金	省略
利息		事務費	
		振込手数料	
小 計		小 計	
前月より繰越		次月へ繰越	
合 計		合 計	

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会堂建築献金	省略	支援金	省略
		振込手数料	
小 計		小 計	
前月繰越金		次月へ繰越	
合 計		合 計	

年会費・特別献金者名（敬称略・順不同）

2020.1.1～2020.6.30

省略（87名）

会堂建築献金

省略（31名）